断熱床下収納庫施工説明書

９００タイプ用（ふた板１５mm厚・２１mm厚　共通）
※ふた板の厚みが２１㎜の場合は本書にある[ ]内の内容をご参照願います。

工　事　店　様　へ

機器を正しく据え付けていただくためにこの説明書をよくお読みください。
施工説明書及び、取扱説明書は紛失や汚れのないよう保管し、工事終了後、必ずお客様へお渡しください。

必ずお守りください

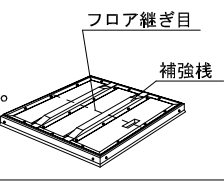
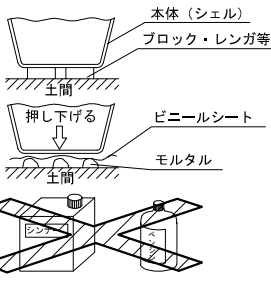
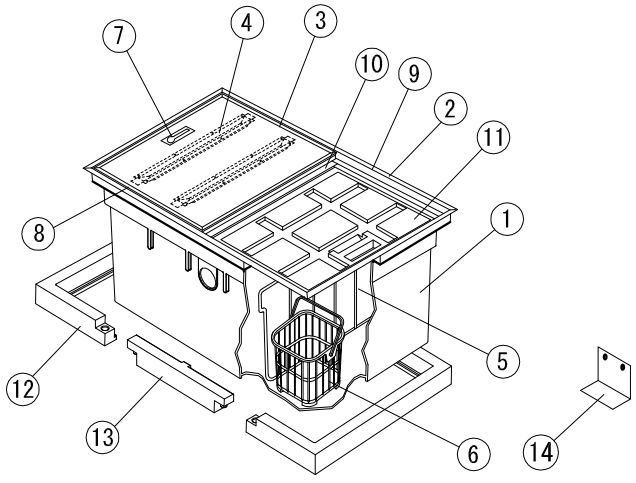
絵表示について

この施工説明書では、製品を正しく据え付けしていただき、お客様への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになつています。

注意　この表示を無視して、誤つた取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性及び、物的損害の発生が想定されます。

この記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

⚠ 注意

補強桟は必ずふた板の木目に直角に取り付けてください。
またふた板のフロアに継ぎ目がある場合には木目の方向に関係なく継ぎ目に対して直角に補強桟を取り付けてください。
ふた板の強度が不足しますと、開口部に転落してけがをするおそれがあります。

- 収納庫の場合、ブロック、レンガ等で本体底部を受けてください。収納物の重量で本体が変形するおそれがあります。
- 収納庫の本体をモルタルで受ける場合は、ビニールシートなどを間に入れてください。
- 収納庫の本体は樹脂製ですので火気の使用や溶剤の使用に注意してください。

各部の名称

部品番号	部　品　名　称	員数
①	本体	1
②	アルミ外枠	1
③	アルミふた枠	2
④	補強桟600	4
⑤	仕切板	1
⑥	網カゴ	1
⑦	回転取手・取手カバーN	2
⑧	パッキンＪ	8
⑨	パッキンＫ	8
⑩	中　桟（断熱材付）	1
⑪	中蓋断熱材	2
⑫	補助根太断熱材	2
⑬	補助根太連結断熱材	2
⑭	Ｌ金具	6

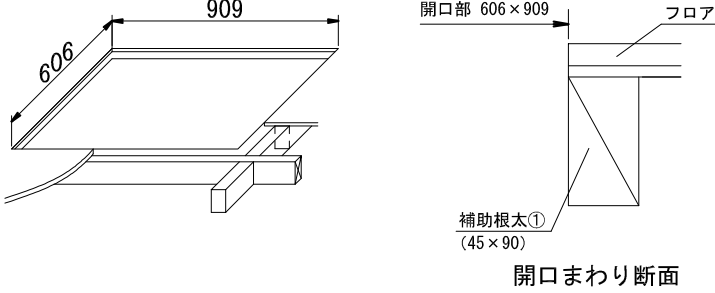
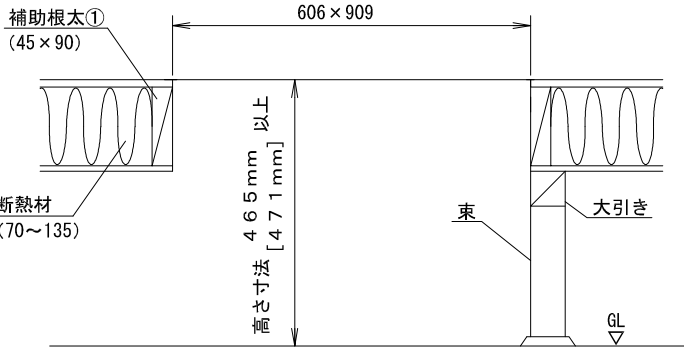
附属部品

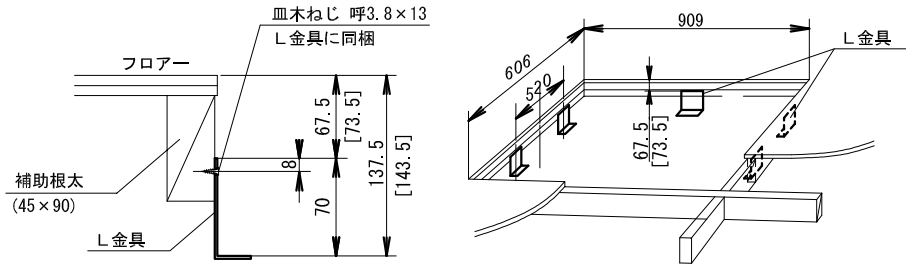
	部 品 名 称	員数
回転取手用 ※	なべ小ねじ Ｍ４×１４[Ｍ４×２０]	2
	スプリングワッシャ	2
外枠用	皿木ねじ 呼３．８×２０	8
蓋枠用	なべタッピングねじ 呼４×１２	１２
	皿小ねじ Ｍ３×５	2
補強桟用	なべタッピングねじ 呼４×１２	１６
Ｌ金具用	皿木ねじ 呼３．８×１３	１２

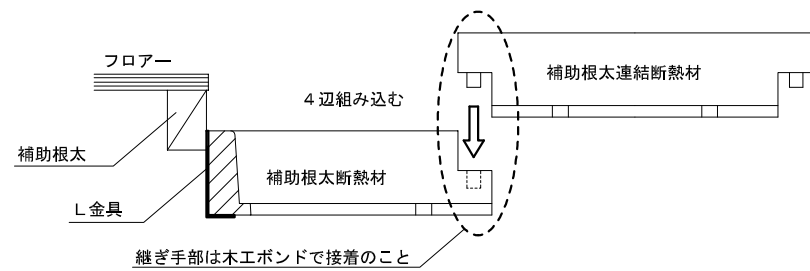
※［]の寸法はふた板２１mm厚用の場合です。

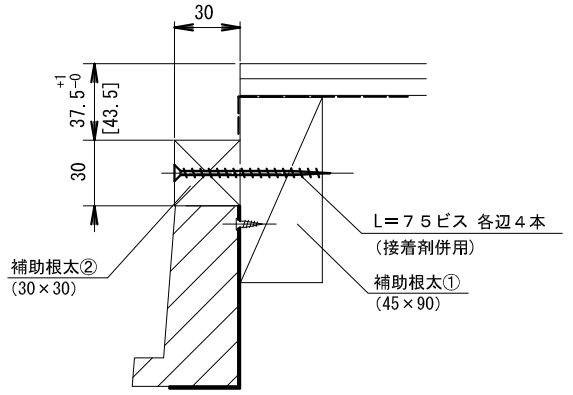
施工方法① 床の開口

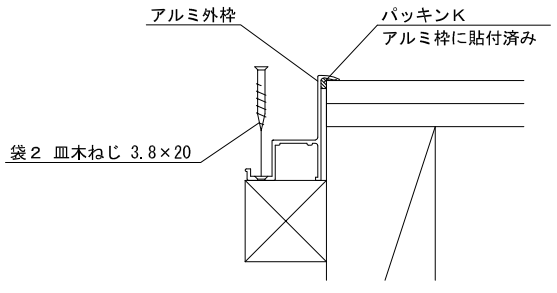
１．床に開口部を設け、開口部のまわりに補助根太を取り付けるための根太（45×90）をまわしてください。根太は床面からの荷重に耐えられるよう大引き、束の新設をしてください。

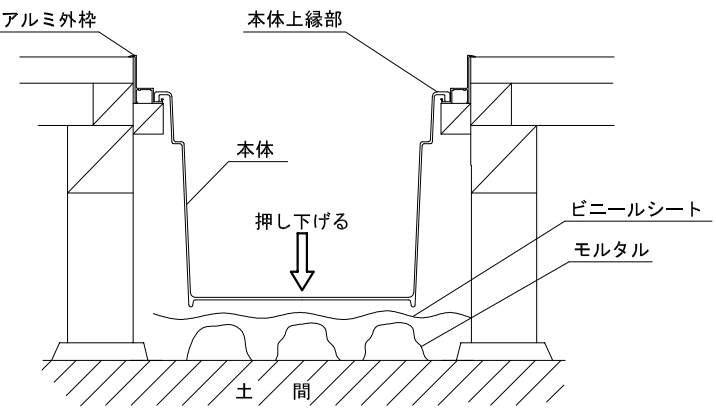
開口まわり断面

２．床面から土間までの高さは４６５［４７１］mm以上確保してください。

施工方法② 補助根太断熱材の取り付け

３．Ｌ金具はフロア面より67.5[73.5] $^{+1}_{-0}$ mmの位置に取り付けてください。
Ｌ金具の取付の配置に関しては床下の点検方向に対して右下図のように対面に２個ずつ同梱のビスを使用して、開口中心より520mmのピッチで取り付けてください。

※［]の寸法はふた板２１mm厚用の場合です。

４．３で取り付けたＬ金具の上に補助根太断熱材と補助根太連結断熱材を組み込み、継ぎ手部は木工ボンドで接着します。

施工方法③ アルミ外枠の取り付け

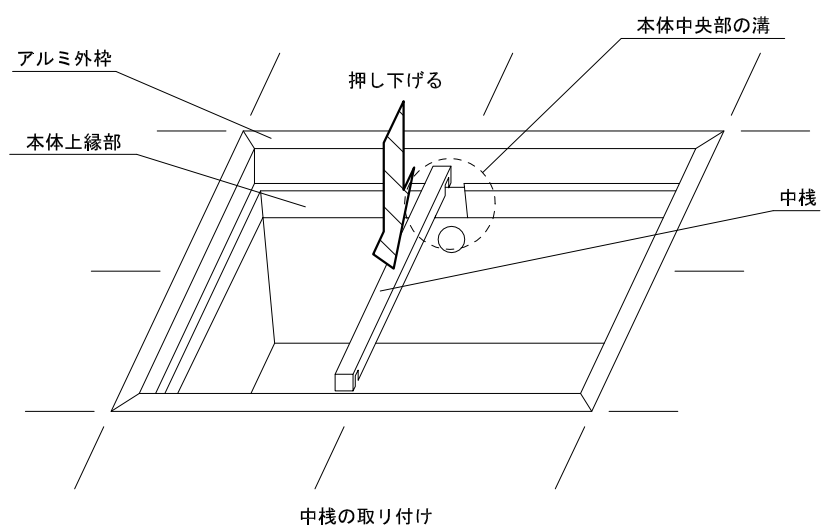
５．アルミ枠取付用の補助根太口30角をフロア面より37.5[43.5] $^{+1}_{-0}$ mmの高さに取り付けてください。

※［]の寸法はふた板２１mm厚用の場合です。

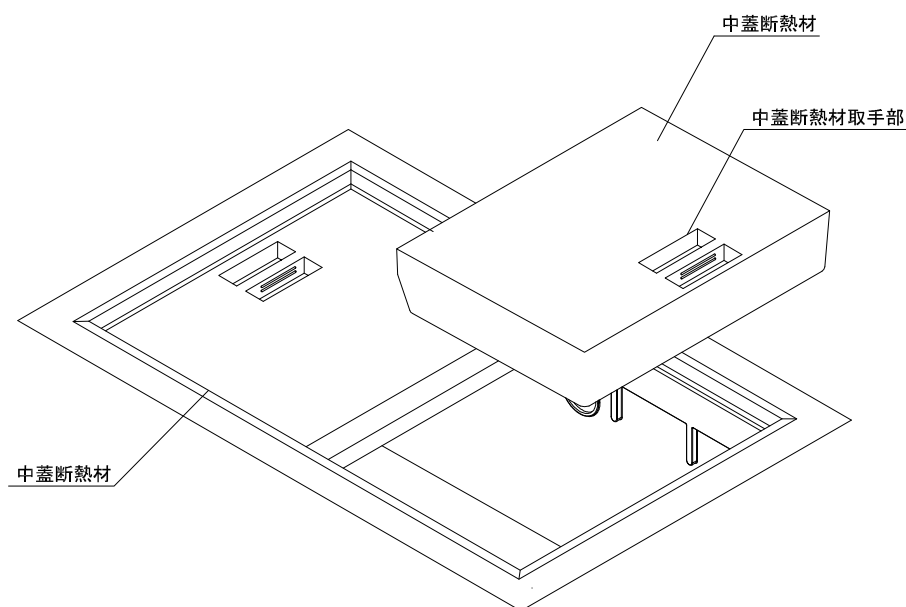
６．アルミ外枠を開口部にはめ込み、付属部品の皿木ねじで補助根太に固定します。（パッキンKは、貼り付け済み。）

施工方法④ 本体の取り付け

７．本体をアルミ枠に設置します。本体上縁部をアルミ外枠に正しくのせてください。本体設置の際はブロック、レンガなどで本体底部を受けてください。モルタルで受ける場合は、モルタルが直接本体底部に密着しないよう下図のように、ビニールシートなどを間にかませてください。

⚠ 注意　本体がアルミ外枠より浮き上がらない様に押し下げてください。浮き上がると、本体のガタツキの原因になります。

裏面に続きます。

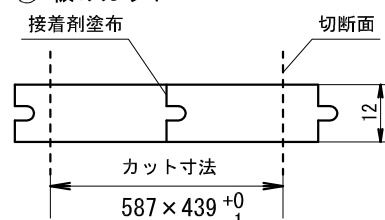
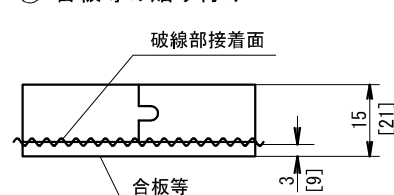
8．本体をアルミ枠に設置した後、本体中央部の溝に中桟をはめ込んでください。

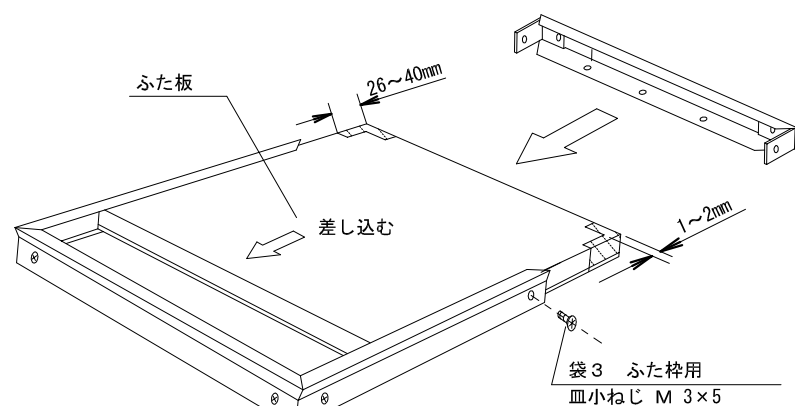
本体と中桟が正しく設置されているか確認してください。
本体、中桟に浮きがありますとふたをのせた時、ガタツキが発生します。

施工方法⑤ 中蓋断熱材の取り付け

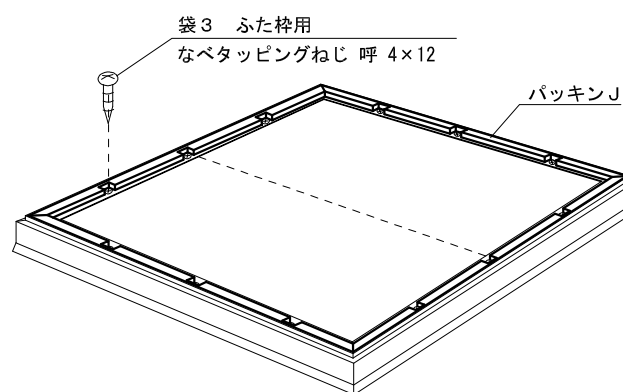
9．本体に中蓋断熱材をはめ込みます。中蓋断熱材の取手部が本体の外側を向くようにして中蓋断熱材を本体にはめ込んでください。

施工方法⑥ ふたの組み立て

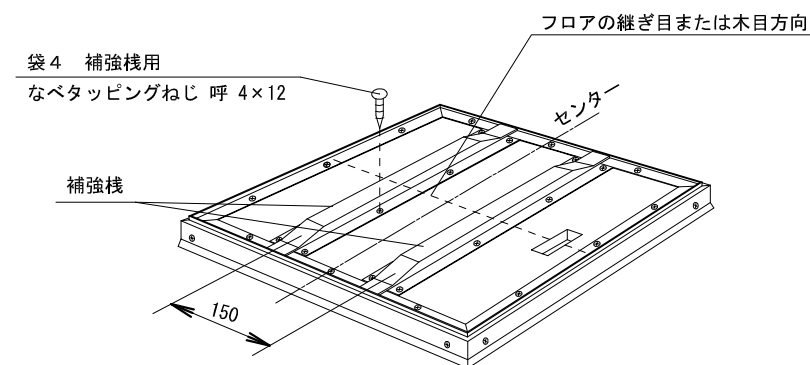
１０．ふた板（現場調達）を組み立てます。
ふた板の取り付けは下図のような要領でおこなってください。
ふた板の厚みは１５［２１］mmが必要です。１２mm厚の床板の場合は、３［９］mm厚の合板等を接着してください。接着剤は接着面全面に塗布して充分な強度を保つようにしてください。

ふた板の厚みが不足していると不良の原因となりますので上記の厚みになるように必ずふた板の厚みを確保してください。

① 板のカット

② 合板等の貼り付け

※［ ］の寸法はふた板２１mm厚用の場合です。

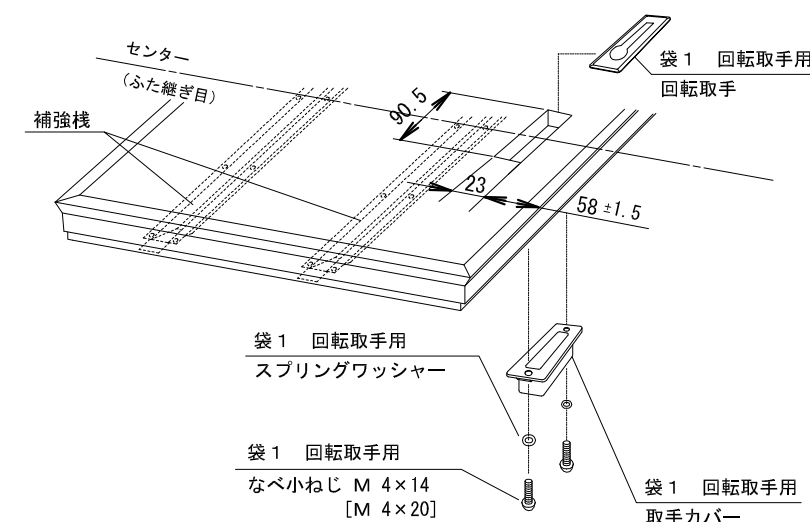
１１．１０で作成したふた板を下図のように差し込んでください。
アルミふた枠の１辺が外れるようになっておりますので、１０で作成したふた板を差し込み、取り外したアルミ枠を２箇所アルミ枠側面より固定してください。

※ ふた板が入りにくい場合はふた板の４角を１～２mmほど切り欠いてください。（上図斜線部参照）

１２．枠組みが終わったら、ふた板裏面より付属部品のなベタッピングねじで１２箇所アルミ枠とふた板を固定してください。（パッキンＪは、貼り付け済み。）

１３．補強桟をふた裏面に取り付けます。

ふた板のフロアに継ぎ目のある場合には、図のように継ぎ目に対して直角に補強桟を取り付けてください。

１４．最後に、回転取手を取り付けます。前項で取り付けた補強桟と平行になるように下図のようにふた板に開口を設けてください。開口を設けましたら回転取手を同梱の取手カバーとビスで固定します。ビスと取手カバーの間には付属のスプリングワッシャをかましてください。

手回しドライバーで固定してください。電動ドライバーの場合、破損する場合があります。

取手のカット穴位置はふた板の継ぎ目に対して長手方向（90.5mm側）が直角になるようにカットしてください（下図参照）。

※ 取手のカット穴寸法　２３×９０．５ mm $^{+1}_{-0}$

※［ ］の寸法はふた板２１mm厚用の場合です。

お願い

本施工説明書及び同梱の取扱説明書は、お施主様にお渡しください。